

# ふるさとの歩み

第7回

～成田市をつくった町と村～

「ふるさとの歩み」では、「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」の刊行に合わせ、現在の成田市を構成する旧町村の歴史を紹介します。同書は、市立図書館と市役所1階行政資料室で頒布(価格=2,500円)しています。

※「成田の地名と歴史—大字別地域の事典—」について詳しくは市立図書館(☎27-4646)へ。

## 遠山村

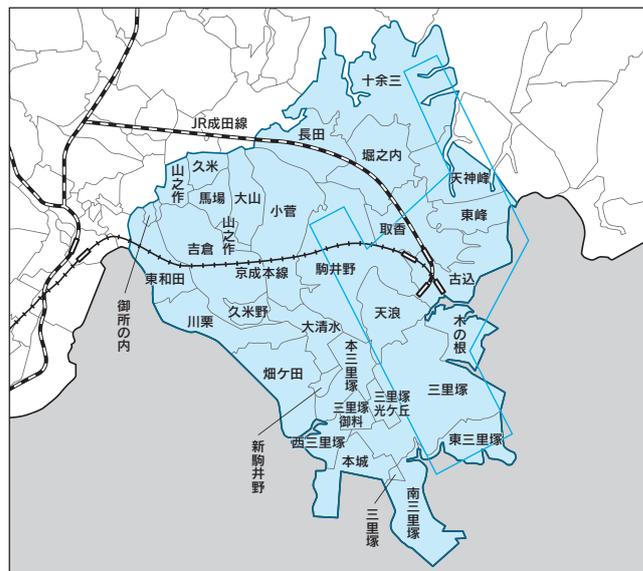
## “花見列車”が行き来した桜の名所

### 村の設立と産業

遠山村は明治22(1889)年、小菅村・大山村・馬場村・久米村・山之作村・吉倉村・東和田村・川栗村・畑ヶ田村・駒井野村・取香村・堀之内村・長田村・十余三村の14か村が合併することで誕生。村役場は小菅に置かれました。大正12(1923)年の農業生産額は米24万9,939円、麦類7万287円、養蚕6万7,284円と米作が中心でしたが、日露戦争以降は村農会の奨励によって大麦の生産量が著しく伸長。その後、小麦の生産も盛んになり、昭和9(1934)年の小麦増収競技会では同村の農家・清宮利三が県内第4位になっています。

### “桜と馬”で親しまれた下総御料牧場

下総御料牧場の前身である下総牧羊場・取香種畜場の誕生は明治8(1875)年。その後幾度かの変遷を経て、明治21(1888)年に宮内省下総御料牧場と改称されました。花見の名所として知られるようになった牧場の桜の歴史は、防風や馬たちの日よけなどを目的に、杉や松とともに植えられたことに始まります。その後、だんだんと桜が有名になり、明治44(1911)年7月に県営鉄道多古線の成田—三里塚間が開通すると、行楽地として注目されるようになりました。開業当時の軌間が600ミリメートルと狭く、主に貨物支線として運用されていた多古線の経営は赤字続きであったため、県は昭和2(1927)年に路線を成田電気軌道に譲渡。これを機に、同社の社名は成田鉄道に変更されています。翌年9月、成田鉄道は成田—多古間の改軌工事に着手し、線路の幅が国鉄と同じ1,067ミリメートルに改修されました。これにより、上野や両国から約2時間で三里塚への乗り入れが可能になり、桜の季節には都内から花見客を対象とした臨時列車が直通運行され、桜樹5万本とも10万本とも言われた御料牧場には多くの人が訪れました。昭和41(1966)年7月、この地における新空港建設が閣議決定され、昭和44(1969)年8月に下総御料牧場は約1世紀にわたる歴史の幕を閉じました。



三里塚駅を、黒煙を上げながら走る列車



桜の花が咲き誇る御料牧場(現在の三里塚第1公園周辺)



現在の小菅にあった旧遠山村役場。市制施行後は市役所遠山支所として使用された(「成田の歴史アルバム」より)

### 編集後記

毎年この時期になると、テレビや新聞で目にする“今年の10大ニュース”。今年はやはり、東日本大震災がトップになるのでは？全国を沸かせた出来事としては、なでしこジャパンの活躍がありますが、成田ではご当地映画「ソラからジェシカ」の撮影など、「成田ブランド」関連のイベントが目立ちました。来年の干支は辰。古来中国では権力者の象徴として扱われ、正義感と信用を表しているのだとか…。年が変わっても、引き続きクオリティーの高い広報紙作りを目指し、頑張っていきたいと思います。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成23年12月15日号 No.1209

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>